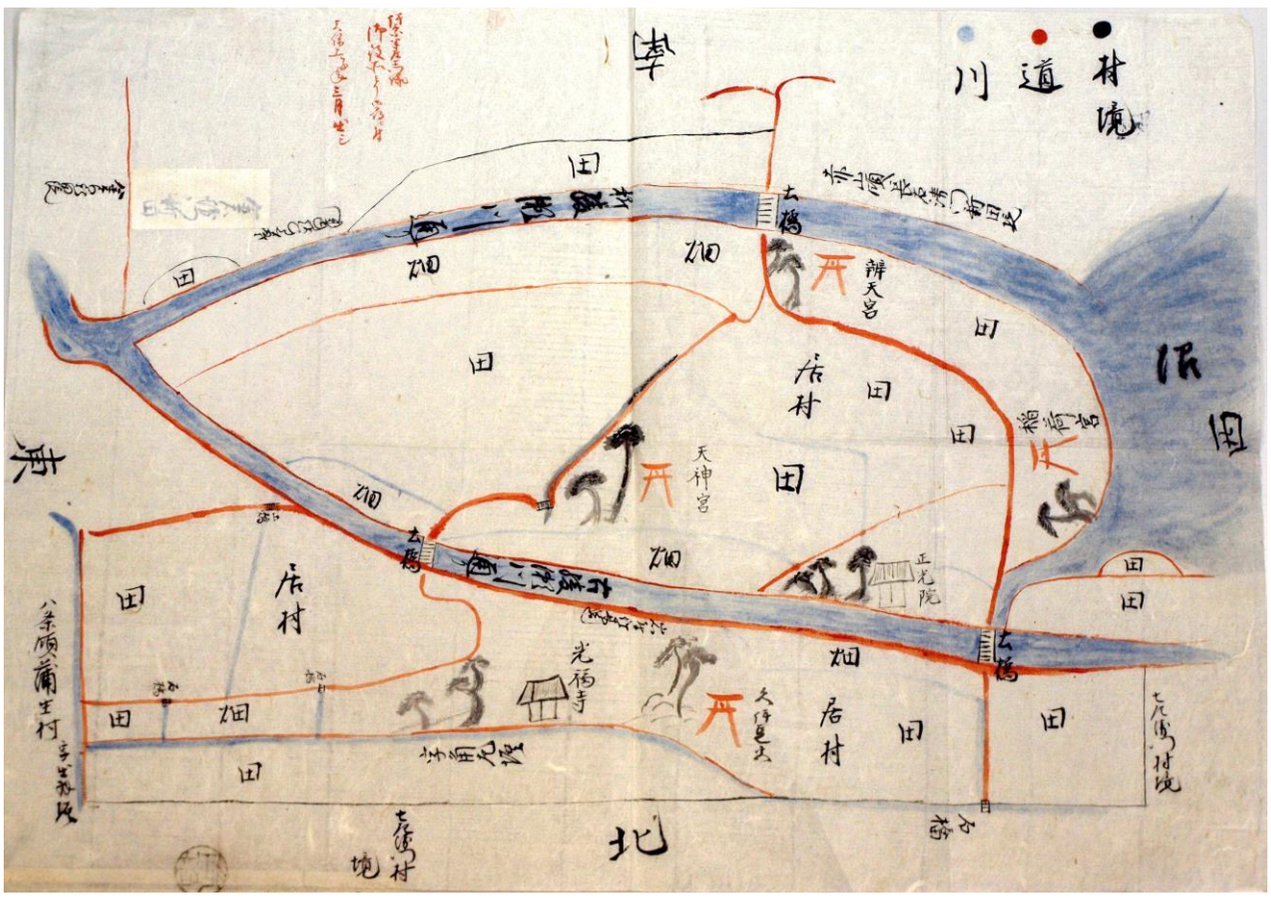
● かつての大間野村 ●

旧中村家住宅の所在する埼玉県越谷市大間野町は、綾瀬川を挟み草加市と接している。綾瀬川左岸の自然堤防上に位置し、標高 2.5 mです。大間野町周辺は江戸時代の寛永年間（1624～44）に新田開発がなされ、元禄 8 年（1695）の検地によって槐戸新田（さいかちどしんでん）より分村し、大間野村として村立てされました。村の鎮守は久伊豆神社で、他に稲荷社、天神社、弁天社が祀られていました。寺院は先述した光福寺のほか、浄土宗の正光院があり、ほかに焔魔堂が村内にありました。天保 9 年（1838）の家数は 65 軒でした。村内全体の耕地のうち 8 割は水田で、用水は末田村溜井を利用していました。明治初期には、米のほかレンコンが特産として記録されています。

明治 22 年（1889）からは旧大間野村・旧七左衛門村・旧腰巻村・旧神明下村・旧谷中村・旧四町野村の 6 か村が合併して出羽村となりました。村名は旧越ヶ谷郷の開発領主、会田出羽にちなんで付けられました。昭和 29 年には 8 町 2 村が合併して越谷町となり、昭和 33 年には大間野村や出羽村の名前はなくなりましたが、町名や地区名として現在でも残っています。

● 大間野村を流れる綾瀬川 ●

現在の越谷市内には古利根川・元荒川・綾瀬川などの河川が流れています。旧大間野村を流れる綾瀬川は、古代には荒川の主流であったとみられ、武蔵国足立郡と埼玉郡の境界になっていました。江戸時代の寛永 6 年（1629）に荒川が熊谷付近で入間川筋に付け替えられ、綾瀬川の水量は激減しました。一方で、流路は安定し、沼沢地であった場所も水田に開発されました。極端に蛇行していた河道は寛永年間以降、幾度となく改修されて現在に至っています。中村家に所蔵されていた天保 11 年（1840）の村絵図（下図）には、新旧二筋の綾瀬川の流れが描かれています。



（中村家に所蔵されていた天保 11 年［1840］の大間野村絵図）